

2009

DESIGN GRADUATION WORKS

INTERIOR GRAPHIC CRAFT PRODUCT INTERFACE

CALENDAR 2009.4-2010.3

DESIGN GRADUATION WORKS

INTERFACE INTERIOR PRODUCT GRAPHIC CRAFT

会津大学短期大学部産業情報学科デザイン情報コース

2009 卒業作品集

ごあいさつ

この「作品集」は、「卒業研究ゼミ発表会」、「卒業研究ゼミ要旨集」、「卒業展」と、様々な機会を通して広く公表し多くの方々からご批判を仰いできました、卒業研究ゼミの成果を示す最後のものです。「作品集」の発行は今年度で5回目を迎え、内容の充実とともに、昨年度より身近な存在となるよう編集を改めました。

産業情報学科では、「卒業研究ゼミ」を必修科目として位置付け、1年次の後半からプレゼミとして実施し、2年次より具体的なテーマを設定し、問題解決能力や創造性の研鑽に取り組んでまいりました。その内容はWebデザイン、グラフィックデザイン、漆工芸作品、空家利活用、まちづくり、おもちゃや製品デザインと様々ですが、いずれも地道な研究を裏づけとした力作です。今年は会津地方振興局の「会津の宝事業」に協力した「地域情報発信プロジェクト」や「空家利活用推進プロジェクト」、「キッズ・ストリート・プログラム(子ども参画型まちづくりプログラムの提案)」など地域に密着したテーマや、「子どものための病院空間の提案」、「組み立てて遊ぶ玩具」、「高齢者とその孫のコミュニケーションツールとしての玩具」、「障害者のための教材」など社会的課題をテーマとしたものが多くございます。

学生諸君にとっては、学生時代の創作への熱意と活力に満ちた日々の証として、知性と感性を傾け、創造への情熱を持って過ごしたときとして、喜びに満ち、時には苦しみもした、或いは挫折感を味わったときでもあります。そうした中から創造された作品たちは、ある意味、ときの記憶でもあり、良き思い出のアルバムになるものと期待しております。

卒業する学生諸君には、この「卒業研究ゼミ」で経験したプロセスと反省を通じて、創造することへの喜び、諸問題に取り組んだ挑戦するエネルギー、充実したときを過ごして得た達成感などを思い出しながら、今後の社会生活の中で果敢に展開し、更なる飛躍に繋げてほしいと願っています。

最後に、卒業研究および卒業制作にご支援、ご協力をいただきました学内外の関係者の方々に深く感謝するとともに厚く御礼を申し上げます。また、この作品集は広く学外にも配布して、諸賢の御高覧に供しています。

皆様の忌悼のないご意見、ご批判を賜れば幸いに存じます。

平成21年3月

会津大学短期大学部産業情報学科  
学科長 時野谷 茂

# 26人 × 17プロジェクト

2009

4 April

地域情報発信プロジェクト

5 May

キッズストリートプログラム  
～子ども参画型まちづくり  
プログラムの提案～  
ユニバーサルデザインを  
取り入れた通りの提案

5 May

斬新なデザインのブック  
カフェ  
ブックストアとカフェの併設に  
関する調査・提案

6 June

COSMOS for one

7 July

空家活用推進プロジェクト

8 August

環境問題における家庭での  
ソーラーパワーの活用

8 August

環境と容器包装軽量化

9 September

自然が遺したもの

9 September

積み重ねの造形  
～搭～

10 October

障害者のための教材

11 November

キッズストリートプログラム  
～子ども参画型まちづくり  
プログラムの提案～  
職業体験のできる  
地域カフェの提案

2 December

地域ブランドにおける  
グラフィックツールの展開

1 January

子どものための  
病院空間の提案

2 February

高齢者とその孫の  
コミュニケーション  
ツールとしての玩具

2 February

現代の食生活に向けた  
漆器の制作

3 March

組み立てて遊ぶ玩具の提案

3 March

情報発信手段としての  
Tシャツデザイン

私たちの住む会津地域では、過疎・高齢化の急速な進行、農林業の生産活動の停滞、後継者不足などから地域活力が低下するといった連鎖的な問題が発生している。そのような問題を受けて、町村では様々な活性化のための活動が実施されている。その中にはツーリズム活動、地域資源活用、伝統文化活動などが挙げられる。それらの活動を総称した事業は『「会津の宝」活用事業』と呼ばれている。会津地域では、まず交流人口の増加を目指し、その後定住人口の増加を目指している。しかし、交流人口を増加させたくても、まず地域資源情報を知らせる手段が少ないという問題があったことがこの研究の背景である。



高郷村取材風景



昭和村取材風景



あかべこ絵付け体験取材



ムービー撮影

1

2

3

4

5

6 入学式

7 2年生学科別ガイダンス  
1年生全体ガイダンス8 2年生前期授業開始  
1年生学科別ガイダンス9 1年生前期授業開始  
定期健康診断(1・2年生)

10

11

12

13

14

15 定期健康診断(2年生)

地域情報発信プロジェクト

プロジェクトの概要 | サイトの使い方 | ホーム

検索 | エキスパート検索: [検索]

地域で探す | ショールームで探す | 地域で探す | 特長

高郷町 留学生そば打ち体験  
健康になろう、農会津  
田舎暮らし体験 竹細工に挑戦！金山町生活体験  
BANDAISAN・BANDAISAN HA TAKARANYAMA  
会津総ろうそく  
鹿沼紙漉し 漉し舟体験  
紙の壁三壽司  
高郷町 留学生農業体験  
昭和村で田舎暮らし体験  
稲津を巡る

おすすめ動画一覧

更新履歴

- 2009/1/23 使い方を更新しました
- 2009/1/18 プライバシーポリシーを更新しました
- 2009/1/16 サイトマップを更新しました
- 2009/1/15 特長ページを更新しました

プライバシーポリシー | お問い合わせ | サイトマップ

Copyright © 2009 会津大学短期大学部. All rights reserved.



地域資源情報を知らせる手段が少ないという背景から、私たちは『「会津の宝」活用事業』の一環として地域資源情報を集約させたWebサイトを構築・配信することにした。そして、そのWebサイトによってより多くの人に会津地域について知ってもらうことが最終目的である。方法は、取材・編集・Webサイトの作成の3段階で進めた。取材・撮影した動画を編集し、構築したWebサイトにアップロードした。位置情報・取材先の情報も合わせて公開している。

Proposal of web site design for providing local information at Aizu

## 地域情報発信プロジェクト

菅野 早苗 / Sanae Sugeno

鈴木 渚 / Nagisa Suzuki

関口 遼 / Haruka Sekiguchi

原田 千尋 / Chihiro Harada

柳沢 実南 / Minami Yanagisawa

ホームページ / ムービー

16 前期履修登録

17 前期履修登録

18

19

20

21

22

23

24

25

26

27

28

29 昭和の日

30



子ども参加型のまちづくりを考える上で私が注目したのは大町通りの「道」である。大町通りの道は一方通行と双方通行の箇所があるが、自動車交通量の多さに道幅が狭く、さらにスピードを出しすぎている車も多い。また、歩道も幅が狭く、段差や危険な箇所も他所見つけられる。子ども参加型のまちづくりを提案する上で、道の安全性や快適性は必要不可欠な要素であると考え、ユニバーサルデザインを取り入れた通りの改善を提案することとした。

提案は、安全性や使いやすさを考えたハード面と、人と人とのコミュニケーションを重視したソフト面の2つの視点から提案を行った。ハード面ではまず、道全体を一車線道路にしてボンエルフをつくることで歩道を広く取ることができる。また、車道にはハンブを設けスピードを抑制する。歩道にはトロッコの線路を再現することで子どもたちにも楽しい通りにした。ソフト面では、どうぞサインや子どものための「避難の家」のサイン、案内板や誘導のサインを提案し、通り全体のつながりを考えた。

KIDS STREET PROGRAM ・ A proposal of town renewal program committed by kids ・

**キッズストリートプログラム** ～子ども参画型まちづくりプログラムの提案～

A case study of town renewal applying universal design  
ユニバーサルデザインを取り入れた通りの提案

東海林 美由紀 / Miyuki Syoji

スチレンボード / プラ板 / バルサ / 角材 / 画用紙 / 紙粘土  
1200×1500×60

1

2

3 憲法記念日

4 みどりの日

5 こどもの日

6 振替休日

7

8

9

10 母の日

11

12

13

14

15 オリエンテーションキャンプ



今回ブックカフェを研究テーマとしたのは私たちの日常で利用されている書店をさらに利用しやすい空間として作れないか研究しようと思ったからである。誰も店内で購入する前の本を読むことができたらよいと思ったことがあるのでないか。ブックカフェとは書店に併設されたカフェでコーヒーを飲みながら店内の本を読むかができる空間である。日本ではまだ店舗数が少ないが、都心部を中心に少しずつ増えているようである。現地調査を行い、ブックカフェには多くの利用者がコーヒーを片手に読書をしていることがわかった。また、飲食や休憩場所などにも利用されている。書店にカフェを併設することでライフスタイルが加わりより豊かな時間を過ごすことができる。また、書店とカフェともに利用者が増え、売り上げを伸ばすことができる。しかし、何より今まで日本では懸念されてきた店内で読書をするというスタイルの導入が最も書店の新しい発展ではないだろうか。本研究を通してより多くの人にブックカフェを知ってもらい、活用してもらいたいと思う。

Survey and proposal about adjoining cafés to book stores

## 斬新なデザインのブックカフェ ブックストアとカフェの併設に関する調査・提案

進藤 万里安 / Maria Sindo

論文 / A4 (73P)

16 オリエンテーションキャンプ

17

18

19

20 定期健康診断(1年生)

21

22

23

24

25

26

27

28 スポーツ大会

29

30

31



1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

15



宇宙タワー



宇宙ピラミット



隕石



流星

もし地球に水がなかったら、太陽がなかったら、太陽系や他の星々が回って  
 いなかったら、自分たちは存在していなかったかもしれない。星や月や太陽が  
 うまく回っているから、自分たちは存在してられる。偶然にしては出来過ぎ  
 なのではないかと言いたくなってしまふような不思議な繋がりを、宇宙は  
 今この瞬間も創り出している。そんな宇宙の神秘的な力を、自分の手で  
 表現してみたい、そして、短大の2年間で追求してきた自分の宇宙に対する  
 考えを造形にしたい、そんな想いをもってこの作品を制作した。また、  
 この卒業研究制作を通して、漆という素材を使った新たな表現方法の  
 研究を行った。この作品を通して、「世界って、宇宙って何だろう？」とか  
 「漆はこんな表現もできるんだ」とか、その人なりの考え方をもらえたらと思う。



## 【制作過程】

- 台座・小物共通 -

1. スケッチ
2. 素材・大きさを決定
3. 台座・小物の原形を制作
4. 布着せ《強度アップのために原形に布を貼る》
5. 目摺り《布着せにてできた布目を埋めるために施す》  
{4-5を2回繰り返す}
6. 下地付け (2~4回行う。ものにより回数は異なる)

- 台座 -

7. 下塗り
8. 追いサビ《面を平らにするために凹面に下地を付ける》  
{7-8を面がきれいになるまでひたすらやる}
9. 中塗り (面がきれいになるまで)
10. 上塗り
11. 摺り漆 (2回)
12. 銅摺り《ツヤを上げるために行う》
13. 摺り漆 (2回)
14. 磨き

- 小物 -

7. 下塗り
8. 追いサビ  
{7-8を面がきれいになるまでひたすらやる}
9. 中塗り (2回程度)
10. ものによっては加飾を施す
11. 銅刷り・磨き等

## 【制作工程】



1) 原型制作



2) 布着せ



3) 下地付け



4) 下塗り



5) 追いサビ



6) 加飾

## COSMOS for one

小松 愛実 / Manami Komatsu

研ぎ出し蒔絵 / 変わり塗 / 摺り漆 他  
漆 / スタイロフォーム / 木材 / ピアノ線  
銀粉 / 貝粉 / 乾漆粉 / 金箔  
900×1200×100 (台)



16

17

18

19

20

21 夏至・父の日

22

23

24

25

26

27

28

29

30



475×350×270 / 康



1

2

3

4

5

6



570×350×250 / 添田



590×225×235 / 吾妻

7 <sup>セタ</sup>

8

9

10

11



12

13

14

15

現在の会津では、過疎化や高齢化に伴い、年々“空家”となる物件が増加している傾向にある。そこで福島県会津若松地方振興局と会津大学短期大学部、喜多方市、西会津町、柳津町、三島町、金山町、昭和村が連携し、取り組んだのが昨年の“空家等地域情報データベース構築事業”である。今年は新たに会津美里町及び北塩原村を加えた8市町村を対象に、より空家の利活用を推進させることを目標とした。具体的には、空家情報データベースの拡充、空家の維持管理を支援するシステム作り、移住希望者の相談窓口を意識した移住者同士のネットワーク構築、他地域の人が田舎暮らしを体験できる滞在型プログラム作り等空家の利活用を推進することを目的としている。



先進地調査



関山での集会



空き家の現地調査



耕作放棄地



空家

昨年引き続き行った空家のデータベース化は、新たに調査した10件をHPに載せることで、空家地域情報サイト(会津地方振興局)をさらに充実化させることができた。維持管理支援システムでは基本的な枠組みが理解されたため、次のステップである宅建協会とのタイアップや支援内容の継続的検討が必要である。また、独居老人の生活サポートやグリーンツーリズム、耕作放棄地など有効的に活用することも必要であると思われる。移住者ネットワークの構築に関しては、移住希望者と移住者がコミュニケーションを取れる場が必要であり、懇談会を通じて決定した参加者の名簿作成やインターネットを用いた情報交換の場を作り、それを活用することでネットワーク構築の第一歩となった。今後はメンバーの増加に向けた活動や定期的な懇話会の開催が必要である。

## Project of reusing and reutilizing an unused houses 空家利活用推進プロジェクト

吾妻 良亮 / Ryosuke Azuma

康 民和 / Mina Kan

添田 成子 / Seiko Soeta

スチレンボード(5.7mm) / バルサ材 / 木材 / 塩ビ板

590×225×235 / 吾妻 475×350×270 / 康 570×350×250 / 添田

16

17

18

19

20 海の日

21

22

23

24

25

26

27 前期定期試験(~7/31まで)

28

29

30

31



リブと中心の接続



パーツ

私はテーマについて調べていくうちにソーラークッカーというものに出会った。太陽熱を利用し、自然の力だけで調理するものだ。持ち運びや収納しやすいように分解でき、組み立てて使用出来るようにした。また、一般的なソーラークッカーは円形がほとんどだったので商品としての魅力をあげる事と太陽を向いているというイメージから花形にした。季節や時間で太陽の向きや位置が変わるので、その調節も出来るようにした。親子で楽しむキャンプの時間は、いつもより自然と多く触れ合える事が出来るのだから、ガスや電気をあまり使わずにキャンプを過ごして欲しいと思った。その中で、楽しみだけではなく自然の厳しさや、ガスや電気の大切さを実感して欲しいと思う。

A study of utilizing solar power at homes considering ecological issues

## 環境問題における家庭でのソーラーパワーの活用方法

佐藤 有香 / Yuka Sato

木材 / アルミホイル / 螺子などの金具 / ワイヤー / 工作用紙



1 夏季休業(～9/29まで)

2 オープンキャンパス

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

15



パイの菓子の包装デザイン



靴下屋の包装デザイン

容器包装は購入や消費によって比較的短期間のうちに捨てられる。内容物の保護・取扱いの利便性・情報の提供等の条件を満たした上で、過剰な包装がされてしまうのは市場での誘目性や贈答品としての見栄えを良くしようとするのが原因である。ここ数年、環境に対する意識が高まり簡易包装がなされた商品が急増している。しかし何もかも簡易包装、省資源化するわけにはいかない。

日本の文化として伝わってきた冠婚葬祭や、贈る・贈られるの関係がある贈答品を省資源化の対象にしても、社会で生き残ることは出来ないと考え。商品の本質を考え、品質を守るために必要なだけの材料を残し適正包装にすることで環境問題の解決に役立てるのが本研究の目的である。具体的には発生抑制に重点を置き、使用後の再利用・再生がスムーズに出来る包装を提案する。5つの製品それぞれの特長を探し、それらを活かしたリデザインをした。調査・モデルの制作をしていくにつれ、軽量化の追及とコスト削減、形やデザイン、家族構成に合ったサイズや使われ方に対応することの難しさを実感した。

A case study on containers and wrappings from the ecological point of view

## 容器包装の軽量化

渡辺 好美 / Yoshimi Watanabe

ケント紙/紙紐 他

16

17

18

19

20

21

22

23

24

25

26

27

28

29

30

31



1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

15

化石は生き物が死んだその状態で何千年、何万年も残っている。すべての生き物が化石として残るのではなく、条件に合ったものだけが残る。初めて恐竜の化石を見たとき、何万年も昔のものが今の時代までのこっている自然の力に感動し、今の時代まで残った化石とはその生き物がその時代に生まれ、生きていた証だと感じた。そして、私も生きてきた証、短大で学んできた証を、化石をモチーフにした作品で遺したいと考えた。

沢山の恐竜の化石を見ていろんな形の化石があることに驚いた。その中でも一番印象に残ったものが卵の中で化石になってしまった恐竜の赤ちゃんであった。

その化石を見たとき、恐竜の赤ちゃんは大人になる前に死んでしまっても化石として今の時代まで残っているということから、生きてきた証は遺ると考え、遺るという自然の力をそこから感じ取った。そこで卵の中で化石になってしまった赤ちゃんをモデルにし制作しようと考えた。

Gift from the nature

## 自然が遺したもの

佐々木 香 / Kaori Sasaki

乾漆 / 摺り漆  
漆 / 木材 / 麻布  
500×350×400





今まで生きて来た上での「経験」や「学んだ事」は全て自分自身の中での「積み重ね」ではないかと考える。私はその経験や今までの知識を積み重ね、それらを「構築」させて今の自分は成り立っていて、今も成長している段階なのだ。今まで経験したことのない方法や表現で作品を作ることで、自分の中にまた新たな積み重ねを作れるのではないかと考え、自分の中で自分を表現したり、主張できるものを作りたいと思った。そこで「積み重ね」や「構築」させるというイメージから、それらをコンセプトとした「自分自身の塔」を漆を用いて表現した。

## Tower as myself 積み重ねの造形～塔～

渡邊清哉 / Seiya Watanabe

漆 / スタイロフォーム / 麻布 / 貝粉 / 螺鈿  
900×900×2550

16

17

18

19

20

21 敬老の日

22 国民の休日

23 秋分の日

24

25

26

27

28

29

30 後期学科別ガイダンス  
文化講演会



マッチング形式による障害者のための教材



1 後期授業開始

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12 体育の日

13 後期履修登録

14 後期履修登録

15





モデル

試作品

自分の好き嫌いに関わらず人はそれぞれ特技がある。そして、自分の特技を日常にハンディーを持つ方々のために活かしたいと感じた。そのような理由から、卒業研究のテーマを『障害者のための教材』にした。今回製作した教材はマッチング形式である。箱の上部に描かれたものと関連のあるカードを指定の場所に入れると箱が開くという仕組みだ。重い障害の子供にも使用できるよう動作はシンプルにした。カードや箱の上部の問題は、生徒のレベルに合わせてつくることができるので問題の幅が広い。問題を工夫すれば多くの生徒に対応できる。この研究を通じてなかなか関わることのできない人と話したり触れ合うことでさまざまなことを学べた。時にはこのテーマを選んだ自分を『偽善者なのではないか』と思うこともあった。しかし、卒業研究を通じてたくさんのボランティアに参加し、自分の人生にとってとても有益な経験ができたと思う。

Proposal of teaching materials for challenged people

## 障害者のための教材

木村 恵 / Megumi Kimura

合板 / アクリル板 / 磁石 / 丁番



16 紅翔祭

17 紅翔祭

18 紅翔祭

19

20

21

22

23

24

25

26

27

28

29

30 開学記念日

31 ハロウィーン



最終提案模型



KUMA CAFEの看板製作



KUMA CAFEで使用するイス製作



宣伝用の絵本作成



ロゴマーク



貯金カード



チラシ

会津の中心部である大町通りに、新しいまちづくりのプロジェクトとして、子ども参画型まちづくりのプログラムを提案した。大町通りの空き店舗を利用し、子供たちの仕事体験の場として大町通りをよみがえらせ、子どもや若者を呼び寄せ商店街全体に活気を取り戻すことを目的とした。そこで、子どもたちの仕事体験の場として、会津らしいカフェを考えた。きっかけは、東京に子どもが職業体験のできるキッズシアターを知ったことにあるが、子どもが職業体験できる場を大町通りに設けることは、まちづくりに子どもが自然に貢献できると考えた。

まちづくり団体であるアネッサクラブに協力してもらい、大町通りで比較的高い集客の多い雑貨店ZOOの空きスペースを提供して頂いた。そこで子どもが職業体験のできる『KUMA CAFE』を開き、子どもたちが楽しく学べる会津らしいカフェデザインの提案を行った。

1

2

3 文化の日

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

15 七五三



話し合い風景



イス制作風景



子どもの作業風景



KUMA CAFEの看板



KUMA CAFEの室内



子どもに描いてもらった絵

KUMA CAFEの提案は、大町通りのまちづくり団体の方と何度も話合って、協力して頂いた。最終提案は、模型で理想的なKUMA CAFEを提案し制作を行った。キッズストリートプログラムでは、アネッサクラブの会長、山口夫妻を始め、多くの方々の協力を頂き、沢山の方と交流ができた。KUMA CAFEを通して人との繋がりを学んだ卒業研究となった。

KIDS STREET PROGRAM ・ A proposal of town renewal program committed by kids ・  
**キッズストリートプログラム** ～子ども参画型まちづくりプログラムの提案～

A case study of internship program at local cafés  
職業体験のできる地域カフェの提案

田中 恵美 / Megumi Tanaka

合板 / バルサ板 / 塩ビ板  
2550×911×610

16

17

18

19

20 推薦・社会人入試

21

22

勤労感謝の日

23

24

25

26

27

28

29

30

曜変天目茶碗をご存知だろうか。国内に僅か3点しか存在しておらず、その全てが国宝に指定されている。また、曜変天目茶碗は製法および製造年代ともに不明であるため、謎にまつまれた茶碗ともされている。その曜変天目茶碗を、福島県会津若松市の会津工業高校の生徒たちが再現することに成功。ぜひこれを商品化し市場に出したい、との思いから会工曜変天目茶碗の地域ブランド化が決定した。そして今回の話をうけた会津大学短期大学部グラフィックゼミとの高大連携事業として本プロジェクトがスタートした。



ディスプレイ



ポスター / 油滴天目茶碗



ポスター / 会工曜変天目茶碗



パッケージ

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

15



パンフレット



ロゴマーク



話し合いの様子



会工曜変天目茶碗をもっと身近な存在として、そばに置いてほしい。そう思った私達は、茶碗に親しみやすいニックネームをつけることにした。それがKAITENである。「かいこうてんもくちやわんの略」と、ろくろの「回転」をかけている。この事業を進めるにあたり、会津工業高校の生徒と会津大学短期大学部の学生の間で、何度も話し合いの場を設けた。最初は短大の学生が高校生たちのイメージや研究に対する思い入れなどを聞き、意見を取り入れた。その事を踏まえた上で短大生がイメージ案をまとめた。最終的に高校生にプレゼンする形で高校生側と短大生のイメージが合致し、いよいよ制作作業にとりかかった。これまでの話し合いで得た会工曜変天目茶碗のイメージを崩さないように、パンフレットやパッケージ、ポスターを制作した。

## Proposal of newly designed leaflets, containers and brochures 地域ブランドにおけるグラフィックツールの展開

大内 実和子 / Miwako Ouchi  
佐藤 美沙江 / Misae Sato  
佐藤 美咲 / Misaki Sato  
三瓶 望 / Nozomi Sanpei

ポスターB2判 / パンフレットB4判 (12項) / パッケージ

16

17

18

19

20

21

22 冬至

23 天皇誕生日

24 クリスマスイブ

25 クリスマス

26 冬季休業 (~1/7まで)

27

28

29

30

31 大晦日

▼模型写真



処置室1



処置室2



エレベーターホール



廊下

▼竹田綜合病院小児病棟の現状



処置室



エレベーターホール



廊下

1 元旦

2

3

4

5

6

7 七草

8

9

10

11 成人の日 鏡開き

12

13

14

15



宮城県立こども病院



ドナルド・マクドナルド・ハウス  
せんだいハウス



太田西ノ内病院



茨城県立こども病院



東京女子医科大学病院



国立成育医療センター

16

17

18

19

20

21

22

23

24

25

26

27

28

29

30

31

近年、国内では都道府県を中心に、小児病棟を核として、成育支援のためのスペースを設けたこども病院が整備されている傾向にある。また、数は少ないが、こども病院に隣接してその家族の宿泊施設もつくられるようになってきた。本研究ではこのようなこども病院を対象に、現地調査、アンケート調査等を行った。そして調査結果から子どもたちの病院での生活と成育のためにはどのような空間が適しているかを分析し、分析結果をもとに子どものための病院空間の提案を行った。

デザイン提案は会津若松市内にある竹田総合病院のエレベーターホールと処置室で「空」をテーマに行った。エレベーターホールは手作りの絵本コーナーが設けられていたことから、靴を脱いで自由に本が読める図書スペースとして提案する。処置室は天井を星空にして、星が光ることで子どもたちの気を紛らわすことができるよう考えた。また、子どもたちがリラックスできるような小さなプレイコーナーを設けた。

## A proposal of space design for children at hospitals 子どものための病院空間の提案

横田彩夏 / Ayaka Yokota

スチレンボード / アクリル板 / フェルト  
1600 x 555 x 134





十二支のつどい 🐯 🐎 🐄 🐱 🐰 🐹 🐻 🐼 🐊 🐅 🐆 🐇  
 おじいちゃん おばあちゃんとあそぼう  
 🐶 🐩 🐪 🐫 🐘 🐙 🐛 🐜 🐝 🐞 🐟 🐠 🐡 🐢 🐌 🐍 🐎 🐏 🐑 🐒 🐓 🐔 🐕 🐖 🐗 🐘 🐙 🐛 🐜 🐝 🐞 🐟 🐠 🐡 🐢 🐌 🐍

遊び方説明書

核家族が増加傾向にある現代社会において失われつつあるのが子どもとその祖父母の間のコミュニケーションである。そのため、離れた土地に住んでいて、祖父母とあまり触れ合う機会のない子どもは祖父母への関心が低い傾向が見られる。年齢が離れているために共通の話題がないことや、体力差からコミュニケーションをとるのは難しいように思える。また、テレビゲームの低年齢化や携帯ゲーム機の普及により一人で遊ぶ子どもが多くなったこともその一因として挙げられる。このような状況から私は卒業研究のテーマとして、高齢者とその孫を対象としたコミュニケーションツールとしての玩具を選んだ。玩具は十二支をモチーフとした。理由は誰でも知っているということと、子ども、高齢者ともに親しみ易いモチーフだからである。複数人で遊ぶボードゲームは対象を限ることなく広く、様々な効用を人にもたらす。テレビゲームとは異なりリセットできないため協調性が養われることや、人とのコミュニケーションがとれることから社会性の習得にも繋がる。また、頭の活性化を促すので子どもにとっては知的能力や創造意欲の向上になる。高齢者にとってはゲームと称して手軽に頭の体操ができるため自然と老化の進行を遅らせることに繋がるのではないかと感じた。

Proposal of toys as communication tool  
 for senior people and their grandchildren

## 高齢者とその孫のための コミュニケーションツールとしての玩具

藤澤 加奈恵 / Kanae Fujisawa

紙

450×450×30



1 後期定期試験 (~2/5まで)

2

3 節分

4

5

6

7

8

9

10

11 建国記念日

12 I期入学試験

13

14 聖バレンタインデー

15





16

17

18

19

20

21

22

23

24

25

26

27

28

私は会津に来て一人暮らしを始めてから、いつも自分のことを気にかけて支えてくれた家族は自分にとって大切な存在であると改めて実感した。現代では多くの家庭で1人1人が自分の部屋を持ち、家族同士の関わりが希薄になりがちであるという状況が様々な報道で伝えられ、それは昨今の痛ましい事件にも関係があるように思われる。

このことから家族間でのコミュニケーションの必要性を強く感じ、これまで学んできた漆を用いてコミュニケーションのきっかけを作ることはできないかと考え、まずは食事の時間を共有することから始めようと、家族で使用するための漆器を制作した。

デザインは、テーマ設定が家族に関するものであり、1人よりも数人で使用したほうが楽しいものにしたと考えたことから、1セットで「鳥の親子」という関連性を持たせた。

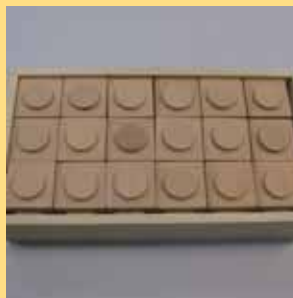
Dishes for home use ・ 'japan' for a subject of everyday conversation ・  
**親子皿** ～コミュニケーションツールとしての漆器～

中村 志津香 / Shizuka Nakamura

脱乾漆 / 平蒔絵  
漆 / 麻布 / 金粉

大 300×300 中 120×200 小 150×150





試作品



おもちゃを作りたいと思い調べてみたところ組み立てて遊ぶ知育玩具に興味があった。そのようなおもちゃは、障害を持つ子供の教材となったりシルバートイといわれるお年より向けのものがあったり、また現代では親も幼少のころからの子供の教育に力を入れているため、より多くの需要があるのではないかと思った。このおもちゃの特徴として、立方体の向かい合う面どうしがそれぞれ同じ形になっておりその凹凸を組み合わせて積み上げたり並べたりして遊ぶ認識力が養え、さらに遊んでいるうちにいろいろな組み方、積み木ができ創意工夫して遊ぶことができる。凹凸がある分、普通の積み木より高く積み上げることができるので友達と協力して高く積むなんてこともできるし同じ形を見つけて組み合わせ、達成感を得るといった遊び方もできる。

### A case study of assembly toys 組み立てて遊ぶ玩具の提案

曾根川玲美 / Remi Sonogawa

木材

1

2

3 ひな祭り

4

5

6

7

8

9

10 II期入学試験

11

12

13

14 ホワイトデー

15



Tシャツにカラーコードをデザインした

一般的なTシャツのデザインはファッション性を持たせ、個人の趣向に合わせてあるのが主流である。しかし、近年Tシャツにプリントされるデザインには嗜好性のデザインばかりでなく、メッセージ性をもったデザインTシャツが登場している。例えば、中越地震の復興を進める新潟県では、県民が一致団結して復興を果たすため、その意識を高めるようなデザインをしている。茨城県の事例では、Tシャツに方言一覧をプリントし、地域の特徴をアピールするためにTシャツのデザインが使用されている。このように、近年のTシャツデザインには、ただ個人の趣味としてのデザインだけでなく、Tシャツユーザーの生活地域の情報を載せた情報媒体としてのTシャツデザインが提案され始めている。そこで、私は情報化社会の新たなるアプローチとしてTシャツにカラーコードを取り入れて携帯電話の端末からサイトにアクセスするなど情報を組み合わせたTシャツデザインを提案する。

## A study of designing T-shirts as information media 情報発信の手段としてのTシャツデザイン

樋口 優紀 / Yuki Higuchi

携帯電話用ホームページ / color code



16

17

18

19

20

21

春分の日

22

振替休日

23

24

25

26

27

28

29

30

31

## SEMINAR INTRODUCTION



横尾ゼミ  
interface deisgn

インターフェイスゼミは横尾先生をはじめ、しらす、まま、キャプテン、ちーさん、ひぐちえ、ながのの6名で構成されている。モットーはフリーダム!モットーの通り自由にのびのびと活動している。インターフェイスゼミの6名は、それぞれ得意分野を持っているため、ゼミ生同士が得意分野を生かし、お互いに補い合いながら作業・活動を進めている。卒業研究では、Webサイトのメインデザイン、ロゴデザイン、Webサイト構築、動画撮影・編集、情報収集、文章作成・添削など様々な分野に分かれ作業を進めた。そして、作業を進める過程で発生した問題や疑問は必ずみんなで集まり意見を出し合った。意見がすれ違っても、何度も話し合いお互いを理解しようと正面から向き合うことができた。インターフェイスゼミではWebデザインを中心に講義・実習を進めていく。



牧田ゼミ  
interior deisgn

インテリアゼミでは、指導教員に牧田先生と柴崎先生がいます。1年後期時のゼミ分けによって私たち吾妻良亮、康民和、添田成子は牧田ゼミに配属されました。とても嬉しかったです。なぜなら牧田ゼミは卒業研究の授業中にお菓子やお茶を飲み食いできるからです!!しかも、クリスマスパーティーや1年生の歓迎会など沢山イベントがあり、勉強だけでなく楽しい学生生活をenjoyすることができちゃうゼミなのです。わーい＼(^\_ ^)／わーい

卒業研究では、今年度から新たに会津美里町と北塩原村を加えた計8市町村を対象に「空家の利活用」を推進させる事を目標とし研究に取り組んできました。実際に空家物件の現地調査を行ったり、移住者同士の懇話会の開催や滞在型田舎暮らし体験プログラムの作成の為に協力して下さった関山村づくり実行委員会の方々のお陰です。本当にありがとうございました。そしてさいならび〜



柴崎ゼミ  
interior deisgn

我ら4人衆が誇る柴崎ゼミは、行動力・精神力・積極性が鍛えられます。春には、スピッツの音色と共に美味しいものが食べられます。指導者の柴崎先生は、1人1人の研究をしっかり見守り、正しい道へ導いてくれます。面白い先生です。秋からは、戦いの毎日です。1日が終わり、深夜0時の日にちが変わる瞬間…焦りからくる恐怖感を味わうことができます。他では体験できないハードでスリリングな日々を過ごせ充実した2年間が送れます。毎日が戦いの中…乗り越えた勇者たちは、何とも言えない達成感に満ち溢れることができるでしょう!忙しい柴崎ゼミですが、時間が経てば楽しかったと思える…はず。

そんなやり甲斐のある柴崎ゼミ。色々な方々と知り合える柴崎ゼミ。

あ〜、睡眠よ…さよなら柴崎ゼミ!

ヒマを持って余しているそのの…あなた!柴崎ゼミに、いらっしゃ〜い。



高橋ゼミ  
graphic design

グラフィックゼミは、紙面を媒体としたデザインをしています。一言にグラフィックデザインといっても、ポスター、DM、パッケージなど、学ぶことは沢山あります。また、地域の方々と関わるプロジェクトでは、単にパソコン上の作業をすればいいという訳にはいきません。よいデザインをするためには、コミュニケーション力が必要だということを実感することができました。そんなグラフィックゼミはとてもアットホームです。もはやゼミ生は家族も同然です。みんなそれぞれに個性をしっかりと持っているし先生方もそれを生かしたデザインの指導をしてくださるので、作品の雰囲気がかぶることはありません。自分の個性を思う存分発揮したい方は、ぜひグラフィックゼミの門を叩いてみてください。



井波ゼミ  
craft design

クラフトゼミは井波先生の指導の下、漆という素材を通してものづくりを学んでいます。時折かぶれに苦しみながらも充実した毎日です。県総合美術展への出品等や卒業研究では、夜遅くまで学校に残ったり、休日を返上して作業を行ったりもしました。大変ではありましたがそれらの多くの経験を通して、技術や精神面を成長させることが出来ました。漆はひとつひとつの工程を進めるのに時間がかかる上、工程自体がとても多いので、一つのものを作り上げるのに、多くの時間を費やすことになります。しかし、作品が出来上がったときの達成感は、何物にも変えがたい素晴らしいものです。また、かぶれがつき物なので、かぶれと友達になり、かゆみに強くなります。二年間クラフトゼミに所属し、漆芸という貴重な体験が出来ただけでなく、ものづくりを通して、感覚や精神力、ひとつの物事について深く考える力を養うことが出来ました。クラフトゼミで学んできたことを、社会人になっても生かしていきたいと思えます。



時野谷ゼミ  
product design

時野谷ゼミは工業製品のデザインを日々行っています。今までに時計、懐中電灯、ドライバー、ポットのデザインをしました。コンセプトを考えてそれにあわせてモデルを作り、製品の良さを伝えるためにプレゼンテーションを行っています。卒業研究では一人一人がテーマを設定して進めました。展示方法にもこだわり、どのように見せるかを話し合って工夫しています。時野谷ゼミは程よいプレッシャーの中で生活しています。鮫と鞭の中、そして荒波にもまれた時野谷ゼミ生は強靱な肉体と揺るがない精神を育めました。締め切り間近になるとモチベーションを高めてみんなで励ましあいながら作業します。春には新入生歓迎会をし、夏にはそうめんを食べ、秋には芋煮会、冬にはクリスマスパーティーをするイベント豊富なゼミです。時野谷ゼミはいわゆる万能ゼミです。イラスト、設計図、モデル作成、プレゼンテーション、展示計画といった様々なことを学ぶことが可能です。就職の幅が広いゼミでもあります。教授の時野谷先生は時に厳しくもあり、そして優しくもあり私たちのことを想ってくれているすばらしい先生です。時野谷ゼミは間違いなく自分を成長させてくれるゼミだと思えます。



会津大学短期大学部産業情報学科デザイン情報コース  
卒業作品集 2009年版

表紙  
三瓶 望

編集  
大内 実和子 佐藤 美咲 田中 恵美 横田 彩夏  
佐々木 かおり 佐々木 自然 須藤 唯

発行  
会津大学短期大学部産業情報学科デザイン情報コース 2009年3月  
phone 0242-37-2300 (代表)  
<http://www.jc.u-aizu.ac.jp>